

# 香南市夜須町における広場とツリーハウスの設計

1210156 松尾 恭平  
高知工科大学 システム工学群  
建築・都市デザイン専攻  
指導教員 重山 陽一郎

## 1. 背景

高知県香南市の海沿いにヨットやカヤックなどのマリンスポーツを体験できるYASU海の駅クラブがある。近隣施設の道の駅や海水浴場などとともに主に夏季に観光客や地元客で賑わっている。クラブの敷地にはヨット用の格納倉庫や駐車場、その他施設が備わっている。しかし、管理が行き届いていない未利用地があり、景観を損ねている。

## 2. 目的

### (1) 広場のデザイン

未利用地に広場を提案する。クラブ利用者や地域住民の交流や遊びの場とし、さらなるクラブの賑わいを目指す。既存の設備や、海が目に見えることを活かしたものを提案し、マリンスポーツ体験以外のことでクラブの利用を楽しめるものを造り出す。また、それによるクラブ利用者の増加も目的とする。

### (2) ツリーハウスのデザイン

第一の目的の足掛かりとして、広場の一部にツリーハウスを設計する。クラブの方の要望などを踏まえて、施工が簡易に行えるものとする。



図1 ツリーハウス設計予定場所現状

(写真中央のマツとカイツカイブキをツリーハウスの設計に利用)

## 3. 対象敷地

本設計では、YASU海の駅クラブの所有地のうち北西側並木のスペースと駐車場の一部を対象とする。

(図2、3) 広さはおよそ2,000 m<sup>2</sup>である。

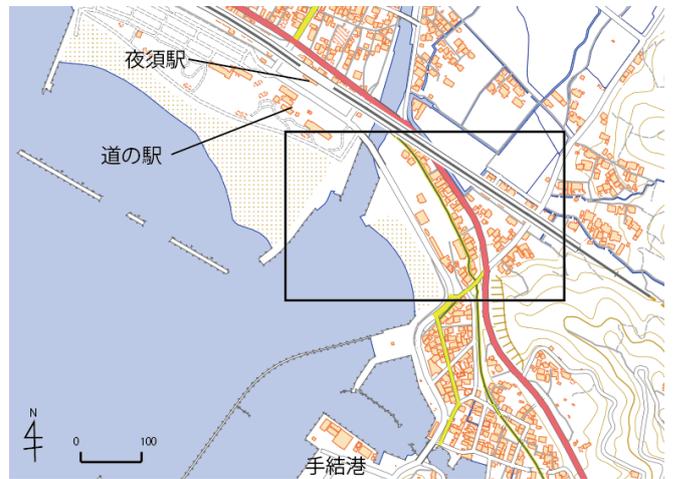


図2 クラブの所在地

国土地理院地図に筆者加筆



図3 対象敷地詳細図

国土地理院地図に筆者加筆

## 4. 設計方針

### (1) 広場のデザイン

今回デザインする広場は、対象敷地が広いことを活かしたものを考える。広いからこそ遊ぶスペースもたくさん作れるが、広場で遊ぶ人を見守る人にも居心地のいい場所となるものを考える。

## (2) ツリーハウスの設計

ツリーハウスは、対象敷地に既存のカイズカイブキとマツを土台の樹木として利用する。写真測量をもとに土台樹木を CAD で再現して設計を行う。構造上の問題に注意する。

## 5. 設計

### (1) 広場

広場には、蜂の巣の形をしたウッドデッキ（図 4、5）を設けた。円形の芝生スペースを囲むようにあるウッドデッキは、休息や講習を行うことができる。ツリーハウスに隣接させたので、親は子供を見守りながらくつろぐこともでき、複数の人が座りながら会話をを楽しむこともできる。また、広場全体を眺めることができるので芝生スペースを駆け回る子供を見守ることもできる。



図 4 ウッドデッキ全体パース



図 5 ウッドデッキ詳細パース



図 6 デッキからツリーハウス方向の眺め



図 7 デッキから広場を見た眺め

ツリーハウスには海を眺められる部分を造るが、本来ツリーハウスは森林の中に作られることが多い。そのため隣にあるウッドデッキは植栽に囲まれたものにするので、デッキに座っている人には少しでも山の中を感じて欲しいと考えた。

### (2) ツリーハウス

ツリーハウスの設計におけるポイントは二つある。一つは、海沿いであることを活かしツリーハウスが海を眺める視点場となること。二つ目は、クラブ利用者が家族連れであることを想定し子供の遊具となるものを造ることである。

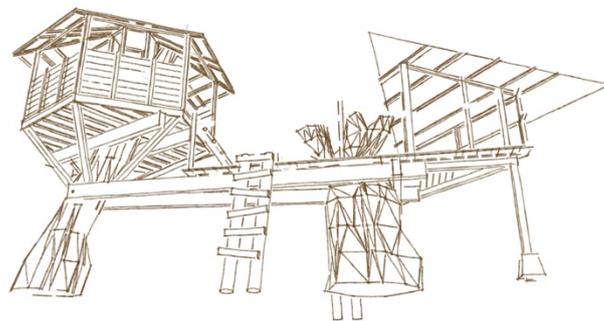


図 8 ツリーハウス全体スケッチ表現パース  
（樹木の枝や葉は一部消している）

視点場となるものができるように土台の樹木を囲むような形の部分を作った。（図 9 参照）これにより海側の景色だけでなく広場の方も眺めることができる。またそれによりツリーハウスへ上がり遊ぶ子供と広場で待つ親が目を合わせ、会話ができるよう考えた。この部分は、直線的に伸びるマツを土台としているため床面を正六角形の形に設計し、松の木と床面の頂点が頬杖の役割となる木材で固定され、支えられるように考えた。施工面では、壁となる部分を小さい板状の木材を内側でビス止めすることをイメージした。この方法であれば高所の作業ではあるが、足

場を設置しなくても床面と周りの支柱さえできてい  
れば施工可能である。



図9 松の木を土台とした部分  
(樹木を一部消している)



図10 ツリーハウスから広場の眺め



図11 ツリーハウスから海の眺め

ツリーハウスの残り部分(図12)は、一つの床面  
からできている。2本の土台となる樹木を挟み込む  
ように固定された梁で支えられている。この部分は、  
カイヅカイブキの葉や枝により上部が覆われている  
ため一部のみ屋根を造り、壁も省いた。たくさんの子  
供が利用するため、死荷重が大きくなるように  
するためである。



図12 カイヅカイブキを土台とした部分  
(構造がわかりやすいように土台樹木上部は写して  
いない)

これら二つの造りからなるツリーハウスは、高さ  
の違い(図13)を設けることでより子供が遊んで楽  
しく感じられるように考えている。

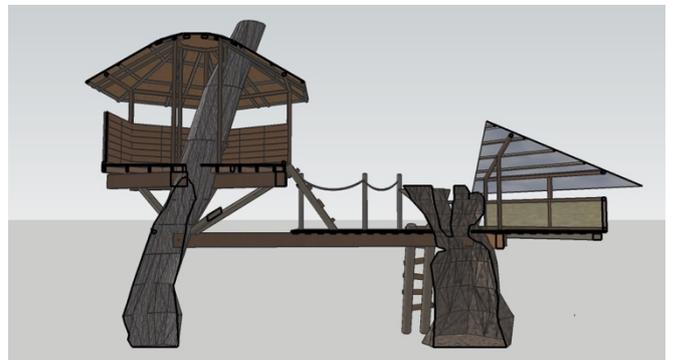


図13 ツリーハウス断面図  
(樹木の枝や葉は一部消している)



図14 ツリーハウス全体パース

#### 参考文献

- ・ツリーハウスをつくる、ピーターネルソン著  
二見書房、2005年
- ・マイシエルター、Derek Diedricksen 著  
オーム社、2017年



図 15 全体鳥瞰図



図 16 対象敷地全体配置図